

# 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果にみる 本校生徒の現状と私たちの課題

## 1、教科ごとの結果分析

### 国語

正答率は全国と比較すると、+0.9ポイントという結果になった。領域別で正答率を見てみると、「話すこと」では、+1.2%「書くこと」では、+4.6%、「読むこと」では、-0.3%と、という結果が出ている。

問題形式では選択式の問題の正答率が全国よりも-1.2%であることが気になる。日頃の授業では選択式で答えを問うことはなく、粘り強く答えを精査する経験に乏しい。定期考査の問題でも、選択肢を正しく理解することに時間を割く必要があるような課題を設定していく必要があると考えられる。記述式の問題にも意欲的に取り組むことができているが、問いを重ねて、「どのような効果があるかを書く」ことを求められると、そこを仕上げることができている。文章の特徴を捉え、その効果について言語化することに課題がある。漢字の書き取りや行書の特徴を問う問題については高い正答率が見られた。身につけた知識を活用する楽しさを実感させることで、現在の課題が克服されたい。

### 数学

平均正答率は全国と比較すると+6.5ポイントという結果となった。どの領域も全国の上回ったが、「関数」が最も全国との正答率の差が最も小さく、他領域に比べてやや苦手意識があることも読み取れる。また、学習確認プログラムでも「関数」の領域の正答率が好ましくないことが多く、関数の苦手意識が解消されていないことがわかった。

S-P表によると全体の正答率が6割から8割である生徒の【当該生徒にとって正答が比較的容易だったと考えられる問題】の誤答の数が多いことが特徴としてみられた。【当該生徒が理解していない可能性が高い問題】が3問以上になると本来解ける問題にも影響が及んでいる様子が読み取れた。また、全国での正答率が9割を超える問題の正答率の低さも気になった。低位の生徒だけでなく、正答率が5割近くである生徒もそのような問題を間違えていることがわかった。中学1年生で学習する四則計算をどの生徒も自信を持って正答が出せるようにしたい。

## 2、質問紙調査から見てきた本校生徒の課題

### ○日常生活について

#### Q1. 「朝食は毎日食べていますか」

「食べている」・「どちらかと言えば食べている」が92.4%。(昨年度は90.6%)

→全国91.2%と比べると少し高いが、1割程度の生徒が朝食をあまり食べていない。

#### Q2. 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」

「寝ている」・「どちらかと言えば寝ている」が81.3%(昨年度は85.1%)

→全国80.7%とほとんど差はないが、昨年度と比較すると就寝時間が一定でない生徒が多くなっている。

#### Q3. 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」

「起きている」・「どちらかと言えば起きている」が89.8%(昨年度は96.9%)

→全国92.5%と比べると-2.7%となっており、起床時間にはばつきがある生徒の割合が若干多くなっている。

◎2割程度の生徒は、就寝時間にばらつきがあり、それが起床時間や登校時間の遅れにつながる要因となってくると考えられる。特に年度の後半（冬季）になると、それが顕著にあらわれるはずなので対策を考えたい。

## ○生徒について

### Q 9. 「自分にはよいところがありますか」

「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」が88.9%（昨年度83.6%）→ 府82.6.1%、全国83.3%

→9割近い生徒が「よいところがある」と回答している。自己肯定感は京都府や全国を大きく上回っている。そんな中で「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答している11.0%の生徒にどのようなアプローチをしていくかを考えていかなければならない。

### Q 11. 「将来の夢や目標を持っていますか」

「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」が71.1%（昨年度67.9%）→ 府64.3%、全国66.3%

→全国・府と比べても、夢や目標を持っている生徒の割合が大きいことがわかる。しかし、約3割の生徒が、将来の夢や希望は「どちらかといえば持っていない」と回答している。

### Q 16. 「学校に行くのが楽しいと思いますか」

「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」が92.4%（昨年度89.8）→ 府83.6%、全国83.8%→9割以上の生徒が「学校に行くことが楽しい」と思っていることがわかる。これは、全国・府と比較して8%以上大きい数値となっている。

◎これらの回答から、多くの生徒は自己肯定感が高く、夢や目標を持っていることが分かる。そんな中で「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「友達関係に満足していますか」という質問に対しても、「当てはまる」が大きく平均を上回っており、日常の学校生活での生徒同士や生徒と教員との関わりが、自己肯定感の向上につながっていると捉えることもできる。

## ○学習面について

### <家庭学習>

**Q20. 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」**

「できている・どちらかといえばできている」と回答した割合 80.5% 全国より+1.9%高い。

※こちら昨年度の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」にかわる質問か。

**Q21. 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」**

2時間以上勉強している 37.3%（昨年度39.9%） 全国より+5.6、昨年度より-2.6%

勉強時間 30 分以下の割合は低く 13.6%（全国17.0%、府21.5%） その中でも、「全くしない」の割合は3.4%

**Q22. 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」**

2時間以上勉強している 31.3%（昨年度38.3%） 全国36.2%・府29.0%

昨年度より-7.0% 全国より-4.9%、府より+2.3%、

勉強時間 「全くしない」の割合が平日より大きくなっている。倍以上の差。9.3%、(+5.9%)

- ・多くの生徒が自分で学び方を考えて工夫できていることがわかる。一方で、低位の生徒については「何の学習を、どんな方法で進めたらよいのかわからない」という状況が考えられる。課題やそれに対する取り組み方を生徒に選択させることも学習を進める上では効果的だが、状況に応じて個別最適な課題や手立てを与えてやる必要も出てくるといえる。
- ・「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」という質問が廃止されているため、通塾率を見て取ることはできないが、平日の学習時間が長くなっている要因の1つに通塾率の高さも挙げられるだろう。
- ・家庭での学習時間については、  
平日…30 分以下の割合 13.6%  
休日…1 時間よりも少ない割合（「全くしない」も含む）33.1%  
休日勉強を「全くしない」の割合（平日3.4% → 休日9.3%）も倍以上となっている。  
このことから、休日にまとまった時間の学習をしたり、与えられた課題以外を自ら取り組んだりする時間は決して多くないように思われる。

### <読書>

**Q23. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）**

100 冊以上と回答 45.7%（昨年度より+2.7%） 全国より+17.4% 府より+14.5%

0冊～25冊と回答 全国より-18.4%

**Q24. 新聞を読んでいますか**

「ほぼ毎日読んでいる」と回答 4.2%（昨年度より+1.1%） 全国より+2.1% 府より+1.5%

「ほとんど、または、全く読まない」と回答 75.4%（昨年度より-5.1%） 全国、府より-5.9%

- ・「1日あたりどれくらいの時間読書をしますか」「読書は好きですか」という質問が廃止されたため、読書量を量ることはできないが、全国、府に比べても本に触れる機会は多くのではないかとと思われる。
- ・新聞においても、全国、府より読む生徒が多いことが分かる。家庭環境による結果と見ることもできるが、3年生国語の単元「新聞の比べ読み」や図書館利用の効果も少なからず影響しているのではないかとと思われる。

<教科授業全般・総合・道徳>

大きく全国を上回るもの

※これら項目の本校結果は、昨年度も全国より大きい割合であったが、今年度は、全国平均も同時に底上げされている

**Q34.「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」**

肯定的な回答 85.5% 全国より+7.6% (昨年度より+12.5%)

**Q36.「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」**

肯定的な回答 93.3% 全国より+8.4% (昨年度より+5.7%)

**Q38.「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」**

肯定的な回答 90.7% 全国より+8.5% (昨年度より+7.8%)

昨年度まで全国平均を下回っていたが、今年度それを上回ったもの

**Q29.「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」**

肯定的な回答 73.7% 全国より+8.9% (昨年度60.1% 全国より-2.0%)

**Q31.「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」**

肯定的な回答 81.4% 全国より+6.0% (昨年度64.0% 全国より-5.1%)

**Q32.「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」**

肯定的な回答 88.1% 全国より+7.2% (昨年度74.2% 全国より-0.7%)

全国平均を上回ってはいるものの、昨年度と比べて割合が小さくなっていたもの

**Q30.「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか」**

肯定的な回答 82.2% 全国より+1.9% (昨年度84.4% 全国より+5.2%)

→昨年度と比較すると -2.2%

- ・これらについて、全ての質問項目で全国を上回り、授業に対して前向きに取り組んでいる様子が見られる。これらの項目については、今年度、全国平均も底上げされているにもかかわらず、それ以上に高いポイントを獲得し、その差を維持しているため本校での強みであると言える。この強みは学年を越えて実践方法の共有を行っていく必要があると思われる。

- ・全国平均を上回っているものの「課題の解決に向けて、自ら取り組む」という点においては伸びしろがあるといえる。

## ○国語・数学・英語について

- ・どの教科も肯定的な回答が全国を上回っているものが多く、本調査の平均正答率も全国を上回っていることから、これまでの授業実践での成果が出ていると思われる。

## ○ICTの活用について

**Q27. 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」**

①ほぼ毎日②週3以上を合わせた回答 97.4% 全国より+33.0% 昨年より+28.6%

**Q28. 「1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。」**

**(3) 楽しみながら学習を進めることができる**

「とてもそう思う・そう思う」と回答 89.0% 全国より+6.6%

**(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる**

「とてもそう思う・そう思う」と回答 99.2% 全国より+10.2%

**(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる**

「とてもそう思う・そう思う」と回答 86.5% 全国より+8.8%

- ・生徒たちはほぼ毎日タブレット端末に触れていることがわかる。また、多くの生徒がそれを使用することで、効果的に学習を進めることができていると感じている。授業者はタブレット端末を積極的に授業に取り入れていきたいところである。しかし、タブレットを家庭学習で活用する時間は30分以下が最も多く、持ち帰りしたときの家庭での使用方法について、保護者とともに考えていく必要があると思われる。

## 調査結果をふまえて、私たちが取り組んでいくべきこと

### ①授業について

学力向上=授業力向上（授業の中で自己指導力の育成・学習適応感の向上）教科会や研修会を通して、授業の改善を図っていく。

#### ・これまでの効果的な授業実践の共有

…3年生の調査結果から、これまでの取り組みの成果が出ていると思われる。現3年生が行ってきた授業実践を共有にしつつも、生徒の実態に合わせて授業改善が必要。特に、昨年度より研究テーマとしてきた授業の中での自己指導力の育成・学習適応感を高めることを目指して授業改善を行うことが、学力の向上につながると考える。また、生徒たちが与えられたものをこなすだけでなく、自ら課題設定したり、主体的に取り組んだりできるように、授業者は手立てを考えながら主体性を育てていく必要があるだろう。

#### ・計画的な学習・家庭学習の習慣

…定期考査前はもちろん、普段から学習の計画を立て、実践し、確認する（PDCA）習慣を付けられるように方法の指導や、声かけをする。そこに関連付けて、家庭学習の習慣も定着させ

たい。特に M ノート（フォーサイト手帳）を有効に活用できるように指導していくことで、これらを達成していきたい。

・ 総合的な学習の時間における課題解決をキャリアの視点だけではなく、地域・社会貢献につなげる

…「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的な回答 85.5%（全国より+9.4%）「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な回答 100%（全国より+4.8%）からもわかるように、その機会やきっかけを与えることで、生徒たちは実力を発揮することができ、目指す資質・能力の育成につなげることができると考えられる。また、これを自己肯定感向上のためにも効果的な手段としたい。

・ 不登校支援、支援を要する生徒への具体的な手立て（ICT 活用含む）

…全国調査を受けられていない生徒や、低学力、支援を要する生徒について目を向ける。UD と合理的配慮の必要な生徒が学習に困らないための具体的な取組を議論し、実践していく必要があると思われる。この実践が、どの生徒にとっても困りを減らす方法にもなると思われる。また、探究する力の育成について、不登校生徒が興味・関心のあるものについて家庭で学習・探究していくことも一つの手段と考える。単に登校している生徒と同様の課題を提示するだけではない取り組みを考えたい。

## ②日常生活での目配り、声かけ

アンケートで「当てはまる」と答えていない生徒に目を向ける。

「9割」ではなく「1割」がいるという意識

…例えば、自己肯定感が高い生徒、夢や目標を持っている生徒は8割程度いるが、その裏には自己肯定感が低く、夢や目標を持っていない生徒が2割いる。アンケートの結果はできていることに目がいきがちだが、「当てはまらない」と回答している生徒が必ずいる。そうした生徒に改めて目を向けるチャンスだと考える。そうした生徒がいるという意識で日々の目配りや声かけを行うことに努めたい。